

# 飯山市総合戦略 効果検証会議 (要旨)

日時 平成 31 年 2 月 28 日 (木) 15:00~17:10  
場所 飯山市役所 4 階第 2・3 委員会室

## 1 開会

## 2 自己紹介

## 3 市長あいさつ

この会議のもととなる飯山市総合戦略については、平成 27 年 10 月に策定した。

平成 20 年ごろ、国では今後の日本の人口減に傾向に対して、「地方創生」を掲げ、各市町村で人口戦略に対応する総合戦略の策定について号令がかかった。

事業の実施については、「地方創生交付金」が得られるものであり、全国の市町村がこの根拠となる計画を作った。

飯山市においては、昭和 30 年の合併当時の人口は約 4 万人であったが、それ以来ずっと減少が続いている。自然増以上に社会減が大きかった。昭和 30 年代から 40 年代は年間 500 人の減であり、昭和 50 年代に若干減り方が緩和した。

H27 には、5 か年の計画の将来推計として、H31 の人口目標を 20,500 人と設定したが、現在は、それ以上に人口減少が進んでいる。第 5 次総合計画の後期基本計画の策定の中で、人口推計を見直し、19,900 人という目標を設定した。

それに向け様々な施策を展開している。委員のみなさまには、施策の取組状況の検証や施策に対する提案などをお願いしたい。

## 4 協議事項

### 1) 飯山市総合戦略の進行管理（進捗状況）について（資料 1） （説明 事務局）

### 2) 地方創生交付金事業の実施状況について（資料 2） （説明 事務局）

### 3) 意見交換

委員： 地区の農業の再生に向け、4つの委員会から構成する地区農業再生センターを立ち上げた。農家の大型化を推進する。畑作については、農家が作りたい作物の面積を毎年確保できるよう、輪作体系を木島地域の中で考えている。

冬場の観光客は、スキー以外の目的をもっている場合も多々ある。「雪にさわる。」「雪を食べる。」等も目的となっている。観光地のない当地区でも取り組めると思う。

獣害については、里山に人の手を入れることと思うが、農業でなんとかできると思う。

人の確保については、大学生のアルバイトの確保や移住者への参加を研究したい。

委員： H28 と H29 に創業スクールに参加した人でも開業していない人がかなりいる。これから期待がもてる。長野県は、移住に人気があるが、都会の人は、地元が知らない明るい話題を知っている。飯山市のいいところを伸ばして、引き続き継続して行くことが重要である。

会長： 起業について、市内の若い人や移住定住で来た若い人もいる。飯山でのライフスタイルがよいという人が出始めてる。この点については、行政でも支援していきたい。

委員 明後日ワケショックを予定している。市内の若い人、中高生に「市内にどんなものがあったらよいか」というアンケートをとった。中高生からはデパートやスタバなどの意見があった。今回はさらに、その理由を聞いた。「Wi-Fi が整っている。」「帰宅前や塾前に寄り、時間をつぶせる。勉強ができ

る場所。」という回答だった。

委員 人口対策について特効薬はないが継続的に行う必要がある。起業は、ネタがあつての起業なので難しいものがある。飯山市は、人口規模が小さくなっているので、お金は外からもつてくれるよう取組まなければならない。このような活動の積み重ねが必要であり、就職先にもつながる。求人を出しても応募が少ないのが現状であるが、続けることで対策が見えてくる。

委員 子どもたちに自分のふるさとを好きになってほしい。大人が地域のよさを伝え、子どもたちが自己肯定感をもって育ってもらいたい。そういう思いがあれば、飯山の支援につながっていくと思う。女性へのアピール、輝く女性について、外への情報発信が重要なのではないか。

委員 移住者は増えているので、この地域に関心をもっている人は何倍もいるのでは思う。

都会で子育て中の家族に自然体験をさせたいと考えたときに、首都圏からのアクセスがよく、川や山がある地域すくないのでは。条件を整えば、週末毎に飯山に通ったり、体験させたりすることができる。

会長：子育て関係には力を入れてやっている。去年は子ども館開館した。子どもだけではなく、保育園前に行く前のお母さんが寄れる切れ目のない支援を行っている。移住定住の推進に向けて、子育てをきめ細かくやっていることをPRすることが大事と考える。

委員 飯山市の地域活性化について研究した。飯山市では、「逸品市」というものを見つけたがどういう効果につながっているのか、教えていただければ。

委員 「逸品市」はワケショックと同時に開催した。いろんな人達に新商品を作って持ち寄ってもらい、来場する都内のバイヤーとの商談につなげる、というコンセプトで取組んだ。

委員 飯山高校では、スキー部の活躍に注目がある。それ以外にもフードコンテストで活躍している。また、和菓子の研究も行っている。高校生もがんばっているので、高校生レストランや商品化などもっと飯山市を全面に出していけるのではと思っている。

委員 この冬シーズンのスキー場の入込みは好調である。外様かまくらまつりの申し込みも 4,800 人と昨年に比べ 1,400 人の増となった。地域の素材や魅力を発信した成果であった。外国人数も増えている。

また、修学旅行や大学との連携を模索しながら取り組んでいる。

委員 次期計画については、第5次総合計画後期基本計画と重なる部分は意味がないのかと思う。まったく異なる視点、特化させるものに絞り込んで計画するのもよいのでは。現計画については、効果の有無、コストパフォーマンスなど、という点を整理してもらおうというのは必要と考える。

人口の下げ止めは大事であるが、最近言われるコンパクトシティなど 10 から 20 年先をみた施策も着手していかなければならないと思った。

委員 創業が伸びている。空き店舗も減っている。金融機関として、創業後も継続した支援体制を構築していきたい。

委員 人口の話として、社会減は政策により対応できる。「雇用の場」をつくるという方向性は大事である。「愛着」と「飯の食い扶持」が人口対策への車の両輪となる。

企業誘致については、どこも苦戦している。また、新規の工場団地の造成は、コスト的に見合わないと思われる。

インバウンドについて、この3年間で全国でも大きく増えている。まちの姿が変わったところもある。

飯山には、スキーと温泉という外国人向けのキラーコンテンツを持っている。観光客が多いと落とすお金が大きい。

委員 住んでいて楽しくのびのびと活動ができる場づくりが大切である。

副本部長 下高井農林の高校再編の課題解決に向け、みなさんのお力添えをお願いしたい。みなさんのご意見を十分に踏まえて、子どもの未来について、全力で対応していきたい。

#### 4) その他

なし

#### 5 閉会